



日鶏協緊急速報No. 6

2025年1月22日
一般社団法人日本養鶏協会

「令和6年度 第2回鳥インフルエンザ 防疫対策緊急全国会議」が開催される

令和7年1月20日（月）、「令和6年度 第2回鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議」が開催され、江藤農林水産大臣より以下のメッセージがありましたので、ご周知いただきますようお願いいたします。

なお、当日資料はこちらをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/attach/pdf/index-703.pdf>

江藤農林水産大臣メッセージのポイント

- 緊急事態。昨日は7例発生、過去に経験がない。
1月だけで今シーズンはすでに23事例、418万羽という異常な事態。
連続発生している3県については、国費全額負担での緊急消毒。
加えて、昨日は愛知県と千葉県に現地対策本部の設置の決定。
- 現場では皆様方に御努力をいただいていることは重々承知しているが、これ以上の拡がりを許すわけにはいかない。より一層の御努力が問われている。
- **第1番の大切なことは、早期の通報。**
「そんなはずはない、これだけしっかりやっているのだから、自分の農場にそんなものが入るはずがない」という気持ちは分かるが、ちょっとでも怪しいと思ったらすぐに通報。通報が遅れたところにおい





日鶏協緊急速報No. 6

2025年1月22日
一般社団法人日本養鶏協会

て、面的な拡がり、近隣に対する集中的な広がりを招いている場面がある。

通報が遅れば、手当金の減額というペナルティーがあるということをしつかり現場の方々にはお知らせいただきたい。空振りの通報が増えている。空振りの通報はむしろ褒められるべきこと。もしかしたらと思ったら通報する、しつかり皆様方に徹底をしていただきたい。

- **第2番は、消毒の徹底、ウイルスの侵入防止。** 先日、愛知県で、拡がりを防ぐため、専門家を交えた現地対策会議を開催。これまでの対策に加え、乾燥した空気の中で、消毒の効果を発揮するために、消石灰だけでなく、液状の消毒液を活用する。乾燥している中でほこりの侵入を防ぐには、不織布のシートも有効ではないか。こういった知見も得られており、連続して発生している県には国として活用を支援する。その他の県でもこうした取組についても、検討いただきたい。
- **第3番は、点検、点検、再点検。** もう何度やってもやりすぎということはない。地域の中で1軒が油断すると、もう連続的にやられてしまう。
- 食卓への影響を大きく懸念。鶏卵は、家庭用の他、パンや菓子などの加工用、外食などにも多く使われている。農林水産省としても、まずはこの影響を緩和するために卵業メーカーには、鶏卵の地域の流通、凍結液卵等の活用を、未発生地域の生産者には飼養期間の延長を依頼したい。生産者、事業者の協力を得て、小売・加工・外食への影響の緩和について、努力をしていきたい。
- 本日の会議を踏まえ、現場に出向いておられる、家保の職員の皆様まで、更に意識を徹底していただいて、しつかり働きかけをお願いする。今日集まっていたいただいているの方々には、しつかり意識を持っていただいて、更に頑張っていたいただければ、まだまだ防ぐ道は沢山あると思っている。このままでは、前回を超えてしまうおそれである、という意識を持っていただきたい。養鶏の業界を守っていくことはもとより、日本の食卓を守っていかねばならない。皆様の御協力をよろしく願います。

【高病原性鳥インフルエンザ対策本部 事務局】

一般社団法人 日本養鶏協会

担当：石井、阪本、利根

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：03-3297-5515 FAX：03-3297-5519 E-mail：info@jpa.or.jp